

a 学校教育目標	豊かな心と表現力を養い、仲間と共に社会貢献できる、たくましい生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 地域に「元気」と「感謝」を届ける誇りある学校
----------	-------------------------------------	----------------------	--------------------------------------------------------------------------------

評価計画				自己評価					改善方策		学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント	
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力の育成	主体的な学びを促す授業づくり	思考力・表現力の育成 ○「目指す資質・能力」や「具体的な姿」を常に意識した授業改善 ○ICT機器の積極的な活用 ○「本質的な問い」を意識した単元構成・単元開発	標準学力調査「活用問題」の正答率における校内平均と全国平均との比率	1 (100%)以上	1年 1 2年 0.94 3年 0.97	1年 1 2年 0.94 3年 0.97	97%	B	○「学校での活動の中でクロームブック(以下「CB」とする)などのパソコンやタブレットを使うことは楽しい」肯定的評価が88%。 ○「自分の考えをまとめたり、分からないことを調べたりするときに、パソコンやタブレットを使っている」肯定的評価が90%。 →授業内での積極的な使用の効果が生徒の学習意欲の向上につながっている。 ○家庭学習時間30分以上は82%。 →各教科で出される宿題に加え、学習内容を第GOノートを活用して復習する取組の効果が全学年で出ている。 ○知識・技能を活用する「思考力・判断力・表現力等」の正答率が1以下(2年・3年)	○モジュール学習で全生徒が毎日ミライシードに取り組む時間を確保することで、CBの活用と学力向上を目指す取組の実施。 ○CBを活用した研究授業を各教科で行い、全教員での協議・共有。(取組の可視化) ○授業におけるCBの積極的な活用と家庭学習でのドリル教材の取組で基礎学力の定着を図る。 ○第GOノートを活用し、家庭学習の量(時間の増)○質(思考力・判断力・表現力等を使った活用問題)の充実を目指す。 ○30分未満の生徒への取組強化を行う。(細やかな家庭との連携) ○今年度創設した「学力向上部」を積極的に運用し、放課後における学力向上の取組の継続。	○			○「学校が楽しい」という数値が下がっているとのことだったが、思春期特有の悩みや感情もあり、楽しい時とそうでない時もある。個々の状況を見ていくことは大事だが、数値に一喜一憂されることなく教育活動を行ってほしい。	
			生徒・教職員アンケートの肯定的回答率(「ICT活用」に関する設問)	80%	80%	80%	100%	A	○家庭学習時間30分以上は82%。 →各教科で出される宿題に加え、学習内容を第GOノートを活用して復習する取組の効果が全学年で出ている。	○学力分析事業改善計画の共有化、着実な実施と検証○改善。(PDCAサイクル) ○授業や家庭学習の取組事例を全教員で共有し、効果的な取組は取り入れていく。 ○授業ごとに小テスト等を行い(フォームの活用)、基礎学力の定着を図る。 ○定期試験や実力テストの結果分析による課題の把握・明確化、それに対する事後指導の徹底・評価の還元を行う。 ○学力向上に向けた教員研修の実施(全国学力・学習状況調査問題の分析、各教科での目標値設定に向けた授業改善検討会など) ○定期試験の試験週間に学力補充タイムの実施(通過率40%未満への個別対策)	○			○放課後の補習(学力向上部)や教え合いは、大変良いより組みと思われる。学力の結果につながるように取組を継続してほしい。	
たくましい心身の育成	自己指導能力の育成 (自ら考えより良く判断し行動する力)	生徒指導・教育相談活動の充実	生徒会活動の充実	○生徒の主体的な取組や頑張りへの肯定的評価 ○集会活動の定例開催と内容の充実 ○地域への貢献活動の促進	90%	77%	78%	87%	B	○「ボランティア活動等を通して、地域貢献を意識している」肯定的評価が78%。 ○生徒主体の全校レクリエーションを企画し、学年の枠をこえた交流を実施。 ○清掃ボランティアを生徒会執行部を中心に募集し、通学路や学校周辺の清掃を行った。	○生徒会執行部を中心に生徒自らが学校をより良くするために、生徒会活動を活発にし、さらに自治的な活動を推進する。 ○今後も地域貢献につながるボランティア活動等を進めていく。 ○新執行部への取組や成果の円滑な移行を図る。	○			○生徒会活動が充実している。企画・運営も生徒主体でがんばっている。教育活動は授業だけでは育たない部分もあるので、生徒発の取組がこれからも続いてほしい。 ○勉強が苦手な子をどう勉強と向き合わせるか。家庭での教育力、例えばほめて伸ばす、などの啓発も必要なのではないだろうか。 ○暴力行為は減ったが不登校は増えている。不登校生徒に対する進路は家庭連携をもとにしっかりとしてくれている。不登校対応が今後重要になってくる。
			生徒アンケートにおける「主体的な地域活動への参加」についての肯定的回答率	90%	81%	88%	98%	B	○「学校へ行くのは楽しい」肯定的評価88%。 ○QUや生徒アンケートから早期発見・早期解決で取組を進めている。定期的な面談を実施。 ○長期欠席・不登校傾向生徒への対応について、委員会での情報共有及びSCとの連携を強化し、組織的な対応を進めている。	○QUや生徒アンケート結果をもとに、SCからコンサルテーションを継続し、より組織的で積極的な生徒指導につなげる。 ○家庭との密な連携、関係機関との連携等、より適切な組織的な対応を推進していく。	○				
働き方改革の推進	子供と向き合う時間の確保	効率的で組織的な校務運営・業務改善	見直し、スリム化、業務改善が実行できた事項	学期に3つ以上	3つ	3つ	100%	A	○研修や全体会議は水曜日に設定し、緊急を除いて他の日に設定することがなかった。定例の委員会は、時間割設定の工夫により授業時間内に組み込んでいる。 ○欠席生徒の家庭連絡はすぐするが浸透し、朝の確認が円滑に行われている。	○今後も年間計画に沿って着実に研修や部会を行う。不祥事防止研修等、必要に応じて迅速に行うようにする。 ○保護者に情報提供する場合は、積極的にすぐるを活用する。	○				
			時間外在校時間 月45時間以内の職員の割合	90%	78%	80%	89%	B	○時間外勤務45時間以上超えた教職員数は23人中、4~12月で平均4.7人であった。(80%) ○毎週水曜日の定時退が徹底されていない日があるので、原則退校を守らせる。 ○5時間授業の導入が定着しつつあり、放課後の子供と向き合う時間の増加や、書類の早期作成に取りかかっている。	○時間外勤務超過は固定化しているが、業務にかかる時間の見直しや改善等、本人とのやり取りの中で助言していく。 ○時期によっては業務が偏ったり負担が大きくなる。進捗状況を把握し、分担や支援などを行っていく。	○			○積極的な業務改善および生徒に対する細やかな取組を継続してください。	

【j: 自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成) C: 60≦(もう少し)<80
B: 80≦(ほぼ達成)<100 D: (できていない)<60

【l: 学校関係者評価 評価】
イ: 自己評価は適正である。
ロ: 自己評価は適正でない。ハ: わからない。